

雪ミーティング（西部地区、北部地区） 会議概要

開催日時・場所	令和8年7月23日（木） 15時15分～17時15分 柳川庁舎2階 大会議室
出席者	【町会】 西部地区90町会のうち60町会が参加（町会長代理含む） 北部地区31町会のうち16町会が参加（町会長代理含む） 【青森市】 市長 西 秀記、副市長 赤坂 寛 都市整備部理事 土岐 政温 都市整備部次長 櫻田 文明 道路維持課長 小田 一彦、雪対策室長 成田 嘉廉 雪対策室主幹 松橋 孝司
次 第	1 開会 2 市長あいさつ 3 今冬に向けた除排雪体制の見直し状況について（説明） 4 意見交換（地区別） 5 閉会

【今冬に向けた除排雪体制の見直し状況についての説明】

- ・配布資料を基に、今冬に向けた除排雪体制の見直し状況について説明。

【各町会長からの主な意見】

町会 (西部第1区)	昨冬実施した二段階除雪の総括が明確になっていない。それを踏まえて何が変わったのかを明らかにしていただきたい。アスファルトが見えるまで除雪してほしいとは言っておらず、多少雪が残っても回数を多くしてもらう方が、交通面でも自分たちで除雪する面でも楽である。 交差点の雪盛りが多く、排雪の時期が遅い。当地区は小中学校や幼稚園が多く、子どもの交通事故の危険があるため、早めに解消してほしい。 新田浄化センターの市民の雪寄せ場は、8時から16時まで、祝日は使用禁止とされており、日勤の方は利用できない。開設時間を前後に拡大し、祝日も使わせていただきたい。 沖館埠頭の雪捨て場にダンプ機能付きの軽トラックで搬入したところ、業者の運転手から断られた。看板にも4トン以下は使用禁止と表示されている。説明と現場の運用が食い違っているので、連絡体制を徹底していただきたい。 業者の成績評価に、エリアごとの住民からの評価も反映していただきたい。
市	昨年は二段階除雪がほとんど実施できていなかった。事業者の理解が十分でなく、事業者に苦情が殺到して尻込みする状況となった。今回は事業者に十分理解してもらったうえで、二段階除雪以上の除雪を行う。 アスファルトを出すことについては、それ以上降らないと分かっていたら不要であるが、昨冬のように2週間降り続く場合は圧雪が積み上がる。ひどい箇所は圧雪が50cm～60cmを超え、重機で剥がすのにも相当の時間を要した。災害時の雪は平時の雪と全く別物であり、一昨年は40年に一度、昨年は80年に一度の降り方であった。次は100年に一度の降り方もあり得るため、まずはアスファルトを出すことを目標としたい。 交差点の雪盛りは、幹線道路・生活道路のいずれの除雪でも生じる。次の冬からパトロールを増やす計画であり、地域の実情をより速やかに確認し、スピーディーな対応に努める。地域からの情報提供もお願いしたい。 新田浄化センターは祝日も供用している。暖気時に運搬車がぬかる場合は入口を通行止めとしていたが、開閉を知らせる看板がなかった点はお詫びする。雪捨てが可能な環境であればシーズン中は開けている。開設時間の拡大については検討したい。 沖館埠頭について、「小さいトラックはダンプ機能があっても不可」というのは誤った案内である。4トン未満でもダンプ機能があれば搬入できることを管理業者に徹底し、看板も見やすくなるよう工夫する。 業務評価への住民意見の反映については、現在はコールセンターや市役所に地区から入る相談件数を評価に反映している。それ以外にどのようなことが必要か調査研究したい。
町会 (西部第1区)	パトロール隊を増やす方向とのことなので、業者への指示も含め、パトロール隊への権限をもう少し委譲していただきたい。

市	ご意見として承る。
町会 (西部第2区)	町内から最も多く出るのは除排雪の際の寄せ雪である。玄関前に寄せてそのまま置いていき、特に剥がした塊を各戸の前に置いていくため、市民が片付けるのは容易でない。市や業者に連絡しても返事がなく、がちが明かない。 町内の除排雪の際、交差点に雪を集めてダンプで排雪するが、業者によっては3、4時間放置し、次の作業に移って残していく。交差点の真ん中や近くの家の前に残され、朝方まで残っていて困る。連絡しても改善されない。
市	氷の塊を置いていくことや、一人暮らしの高齢者宅の前に寄せ雪を大量に置いていくことがないよう、事前に事業者としっかり打ち合わせる。交差点に集めた雪も速やかに排雪するようにしていく。事業者とのコミュニケーションが必要であり、改めて説明し、理解してもらったうえで作業にあたってもらう。 直前の降雪が少なく、固まった圧雪を剥がす場合には、どうしても大きな塊が生じる。今回、除雪と排雪を分ける方法を検討する際にも寄せ雪については十分に検討したが、降ったばかりの雪はまだ固まっておらず、処理できないレベルの雪ではないと考えている。昨冬は至る所でスタックが発生し、救急車も灯油の配達も入れない状況となった。災害時になってから体制を組むことは困難であり、常時その体制で臨むことで災害に強い除雪体制とするのが今回の趣旨である。寄せ雪についてどこまで対応できるかは引き続き検討する。
町会 (西部第2区)	アスファルトまで出す除雪をすると、かえって路面が滑る。高齢者も若い人も転倒するおそれがあるため、ある程度雪が残っている方がよい面もある。 通学路の確保をお願いしたい。信号のある箇所では子どもたちが雪山の間を歩くことになり、段差があれば横を登って滑り降りることになって危険である。
市	除雪車で作業する以上、雪を多少残す場合であっても、ブレードがアスファルトに当たることは避けられない。安全にも配慮する必要があると考えるが、そうした作業を一切行わない除雪というのは難しい部分がある。業者の技術にもよるため、どのようなことができるか相談する。
町会 (西部第3区)	科学文明が進歩する中で、青森市の除排雪の方法はここ何十年も機械動力によるものである。昨年・一昨年で160億円、5年間で250億円ほどを要しており、全てが無駄とは言わないが、最も有効な費用の使い方とは言えないのではないかと。 20年後、50年後、100年後を見据え、例えば国の助成を受けて水素ガスの発電所を市内に設け、その電力で幹線道路だけでなく市内全体の雪を融かし、朝起きたら生活道路まで雪がないというまちづくりのビジョンを描けないものか。
市	エネルギーをどのように扱っていくかということであり、それが実現できれば融雪にもっと費用をかけられることになる。今後のエネルギー政策として、参考にさせていただく。
町会 (西部第4区)	いつ除雪が入るのか分からず、住民から尋ねられても「申告した」としか答えられない。実施した結果が返ってくるような仕組みができないか。「ここで作業しました」と伝えられれば住民は安心する。

	パトロールが足りないのではないか。津波や地震と同様に、降雪も非常事態として全庁を挙げた仕組みを作れないか。市職員は毎朝登庁し自分の地域の状況が分かるので、その情報をまとめて整理する方法もあるのではないか。 真夜中に帰宅すると除雪車が入っていて車が入れず、遠回りせざるを得ない。作業の時間帯や区間の情報が伝わらない。 生活道路は一車線あるかないかであり、幹線でも二車線半程度のため、除雪してもすれ違いができず渋滞が解消されない。 バス路線が降雪で運休する。車のない方の足の確保をお願いしたい。 除雪後にマンホールが破損する。市に伝えると業者の責任とされるが、依然として直らない。業者数の減少や技術の差もあるので、除雪のやり方も含めた工夫が必要ではないか。
市	除雪がいつ入るかの情報は、昨冬もホームページ上で除雪予定日を表示していたが、工区全体の情報であり、工区内のどこが済んだかまでは分からなかった。今年度はGPS等のデータを用いて、工区内のどこまで除雪できているかが分かるように表示する。 職員からの情報収集については「職員総パトロール制」という制度があり、雪だけでなく道路の損傷なども含めて情報を集めている。昨冬は特に雪の情報を集めるよう指示しており、今後も継続する。 コールセンターは、公募に当たり要求水準を昨年から変更し、応答率を上げるため、通話内容を文字起こしするシステムの導入など、応答率を向上させる内容を盛り込んで募集している。 バス路線は幹線の中でも最優先で対応すべきものとして基準を見直した。パトロールを強化し、担当業者には幅員の確保を徹底する。必要に応じ、排雪や拡幅除雪をタイムリーに行う。 町会ホットラインは、昨シーズンは回線が埋まり、またシステムの不具合で地図上の現地確認ができず、ご迷惑をおかけした。次の冬から回線を複数に増やし、GPSの導入に合わせてシステムの改修も予定している。 マンホールの破損については、オペレーターが事前調査時に注意箇所を登録し、作業中に近づくとも警告が出るアプリの導入を促している。あわせて、シーズン前にベテランを講師とする技能研修会を実施し、民間が開催する研修会にも助成金を出す仕組みを設けている。
町会 (西部第5区)	町会ホットラインには反対である。そこまで町会に負担を負わせるべきものではなく、本来は市の予算で計画・実行しているのだから市が責任を持つべきである。冬期間だけ電話回線を増やして広く市民の意見を聞くことが最も大切であり、聞きっぱなしにせず改善を仕切る責任者を置いていただきたい。 GPSによる作業状況の確認には賛成である。ただし、パソコンやスマートフォンを持たない方もいるため、各市民センター等にもモニターを設置し、誰でも確認できるようにしてほしい。 私の住む工区は二か月余り除雪が入らなかった。町民が自らの除雪機で私道や歩道を

	除雪して雪がないように見えるため、業者が除雪済みと勘違いして帰ってしまう事例が何度もある。町会は除雪機で作業した方に協力金を支払っており、人員が足りないのであれば、町会に対して助成を行い、協力を求める方法もあるのではないかな。 市から市民へのPRが不足している。どうにもならなくなってから全国に青森市の映像が流れるようでは、誰も住みたいとは思わない。昨年度も情報発信は後手に回っていた。
市	町会ホットラインは、豪雪時に市の相談窓口へ電話が集中し、町会から電話しても対応してもらえないため専用回線を設けてほしいという経緯で設置したものである。昨冬は町会からの連絡が集中し、一件あたりの通話も長かったことから、回線を増やすこととした。 コールセンターについては、昨冬の応答率を示したうえで、このようなことがない回線数を用意するよう募集しており、応答率の向上を見込んでいる。 公共施設で閲覧できる仕組みについては、スマートフォン等を使用しない方には便利であり、参考にさせていただく。 住民が自主的に作業しているのを見て、業者が作業せずに帰るのは非常によくないことである。作業した方への助成については、東部地区や南部地区の雪ミーティングでも同様の意見があり、他の自治体に事例があることを把握したので、調査研究したい。 情報発信については、「こうした取組を行っている」ということが昨年うまく伝わらなかった面がある。災害時には毎日きれいに作業できるとは限らないため、現在の状況と段取りをしっかりとお伝えできるような情報発信に努めたい。
町会 (西部第6区)	当町会は令和4年度にできた新しい町会で、標高約74メートルの高台にある。現在、除排雪の工区が白旗野工区となっているため、市の出動指令状況では「白旗野工区は作業中」と表示されるが、実際には団地の方に上がって来られないことがあり、1月の雪の多い時期には1週間以上除雪が入らなかった。 工区はそのまま構わないので、出動指令状況の表示を白旗野町会と当町会とで区別し、当町会で作業しているときはそれと分かる表示にさせていただきたい。
市	どのような形で対応できるか検討する。あわせて、GPS等の搭載により見える化を図るので、工区内のどの道路まで除雪できているかがある程度分かるように情報提供していく。その中で進捗を把握していく。
町会 (西部第7区)	令和7年度のホットラインについて、何度かけてもつながらず、つながってもすぐ切れることがあった。返事がないまま切れることが数回あり、町内の方に説明できなかった。この状況では市と町会の不信感が増すばかりであり、町会をまとめることができない。連絡が入った場合に即座に対応できる形をとっていただきたい。 当町会はすり鉢状の地形で坂道が多く、道路幅も狭い。除雪が入らない箇所が随分あり、人も車も出入りできず、買い物もできない状態であった。高齢者が多い地区であり、ガスや灯油の供給も途絶えると孤立状態になる。毎日とは言わないが、週に何回かは除雪していただきたい。 15cm以上の積雪で除雪回数を増やすとのことだが、積雪が多くなり業者の重機が

	足りなくなった場合、どのようにして重機を増やして対応するのか。
市	ホットラインは、回線を増やすなどして、つながらないという状況がなくなるよう対応する。 これまでは15cm以上降り、なおかつ通行に支障があると判断された時に出動していたため、圧雪状態でも走行できればよいという判断もあった。昨冬はそれに輪をかけて降り、冷え込む日が続いたことから、みるみる圧雪が厚くなり、手をかけることも難しくなった。そうしたことがないよう、降った際にはとにかく重機を投入することにまず力を入れる。 集中した降雪時には複数の重機が必要となり、排雪時にはダンプトラックも必要となる。今シーズンは、除排雪事業にあまり参加していない事業者の組合と協定を結び、大変な時に応援してもらえる仕組みづくりを進めている。ダンプトラックについても、冬期にあまり稼働しない設備関係や水道関係の組合と応援の協定を進めており、対応できる重機・ダンプトラックの台数をあらかじめ確保する。
町会 (西部第7区)	幹線道路と住宅地の生活道路の二つを請け負っている業者があると聞くと、幹線を先に行うため生活道路が後回しになる。支障があるのであれば、業者を区分して契約していただきたい。 町会内に二つの業者が入っており、片方の業者が除雪したところで段差ができて車が通れない。一業者にするか、区分を分けて段差が生じないようにしてはどうか。 信号機のない交差点は、雪で道路が高くなって対向車線が見えない。早めに除雪しないと車が全く見え、事故が起きてからでは遅い。
市	これまでのやり方では、幹線道路が開かないと排雪作業が行えないため、排雪と除雪をセットで行う場合は生活工区が後にならざるを得なかった。その間に昨年ほどの大雪が降ると対応できなくなる。今後は幹線道路も生活工区もまず一回除雪するため、幹線が開く前でも生活道路の除雪に入ることができ、同時進行で進められる。現在の状況よりかなり改善されると考えている。 町会の中で工区が分かれているケースはあり、工区の境界で段差が生じないよう、作業の仕上がりを平滑にしてほしいという要望を、これまでの雪ミーティングでもいただいている。最も支障となるのは段差であるため、担当業者にしっかりと指導する。今シーズンから除雪回数を増やし、一定程度降ったらすぐ作業に入ることで、段差が生じる場面もある程度抑えられると考えている。 信号機のない交差点や横断歩道の雪盛りは、幹線道路であれば除雪時にどうしても生じるが、巡回パトロールを増やす計画であり、これまでより早く確認でき、すぐに対応できると考えている。
町会 (北部第1区)	4月10日の市議会全員協議会で工区・路線の評価が示されたが、この評価は現在も変わっていないのか。 補助幹線の油川羽白線は「良」と評価されているが納得できない。至る所で深いわだちができて車がスタックし、動けない車が续出する日が続いた。毎日のように連絡したが除雪されなかった。

	補助幹線がこの状態のため生活道路は全く入らず、車を出せずに仕事を1週間休んだ方、国道まで歩いてバスで買い物に行った方、通勤をバスに切り替えざるを得ない方が続出した。緊急車両のため1車線確保するとの説明であったが、救急車も入れず、県道に車を置いて担架で患者を搬送する状態であった。 町会の生活道路が除雪されたのは、県が市の生活道路35工区に支援を行うと報道された日の夜であった。補助幹線は1月28日に排雪されたが、その際も除雪はされず、歩くことすら困難であった。除雪が入ったのは2月10日の朝である。 油川羽白線と生活道路の担当業者は同じであり、担当工区が力量を超えているのではないかと。業者を替えるべきだという声でいっぱいである。
市	昨シーズンの除雪指令は6回から7回出ている。仮に1回目から6回目までがうまくできて100点満点中70点であれば計420点、最後の除雪が30点であれば合計450点となり、7で割ると60点台となるため「不可」とはならない。総合評価であるため、1回の除雪が最悪であっても、他がきちんとできていれば点数は上がる。 当該工区の記録では、1回目は12月29日に指令が出て3日で完了、2回目は1月6日で2日、3回目は1月13日で2日、4回目は1月22日で2日で完了している。5回目の1月27日の指令から作業が滞り、最終的に完了したのは2月14日である。5回の指令のうち4回までは短期間で終わらせている。
町会 (北部第1区)	除雪が入っていないのに、なぜ評価できるのか。1回目から6回目までできたと言われたが、その時も幹線で2回、生活道路は1回程度しか来ていない。災害級の大雪の間は一度も来ず、車を家から出せない状態であった。状況を伝えても除雪に来ず、いつ入るのか返事もない。「パトロールが判断するので電話に出た者は答えられない」と言われ、パトロールがいつ来たのかも答えられない。「油川は忘れられたのではないかと」という声まで出ている。 評価を改めたうえで、業者が補助幹線と生活工区の両方を担うのは力量を超えているのではないかと。業者がどれだけの作業人員と機械を確保しているのかも明らかにしていただきたい。業者選定も見直してほしい。 これまでは3学期が始まる前に、子どもが安全に通学できるよう一斉排雪を長年行ってきたが、それが全くなかった。災害級の大雪の警報が出たら、来るのを待つのではなく、至急できる限りの除排雪をするよう指令を出せば、市民の受け止めも違っていただかざるである。
市	そのような状況もあったということを受け止め、パトロールの方法や除排雪の方法を見直す。評価の方法も分かりやすいものに改めることを徹底する。 現在、全面的な見直しを行っているところであり、本日の意見もしっかりと受け止めて反映させる。
町会 (北部第2区)	パトロールの体制について、大きい道路ばかり走っていて、車が入れないところには入って来ていないように感じる。普通の車でも通れないところは歩けば分かるので、台数を増やすだけでなく、歩いて地域を見て回る体制も必要ではないかと。 昨冬は救急車もほとんど国道沿いに停め、そこからそりなどで患者を運ぶような状況

	であった。パトロールが実際にそうした場所に入っているのかどうか伺いたい。
市	次の冬はパトロール班を増やし、より細かく確認するようにするほか、クラウドカメラを設置して画像で確認できるようにする。それによって雪の状況が、パトロールを行う職員以外でもネット上で確認できるようにしていくので、監視の体制はさらに強化される。
町会 (北部第3区)	当町会は市の北のはずれにあり、バイパスから北はほとんど田んぼで、冬は西風が強い。パトロール車が来た時は通行できても、30分～1時間で生活道路が完全に埋もれてしまうことが多々ある。災害時の避難指定地である農業振興センターに向かう幹線道路も、30分～1時間で車が通れないほど積もる。 市の指示がなくとも、業者の判断で吹き溜まり等を除雪・排雪できないものか。当地区は雪寄せ場が100か所以上あり、畑や空き地に捨ててよいという方が多く、業者が出れば雪を寄せる場所はいくらでもある。しかし業者は「市の指示がないから出られない」と言う。前向きな検討をお願いしたい。
市	現状でも、業者の判断で除雪を行ってよいことになっている。ただし、排雪は市の指令を待っていただき、まずは雪寄せをしてもらうという運用であり、これは業者の判断で行うことができる。徹底されていない面があるかもしれないので、より徹底するように業者に伝える。
町会 (西部第1区)	住民の敷地から道路への雪出しについて、「見通しが悪くなった」「道路が狭くなった」「向かいで雪を出しているので車が出せない」といった苦情が町会に寄せられる。町会が注意に行くと、翌日から挨拶も返ってこないような状態になり、悪者になることもある。 市に注意をお願いしたところ、パトロールから「実際に現場を見た状態でなければ注意できない」と言われた。現場を見れば雪を出している状況は分かるので行ってほしいと頼んだが、叶わなかった。今後はパトロールが直接その場面を見なくても注意できるよう指導していただきたい。
市	法律にも触れる行為であることを皆様に知っていただく必要があるので、そのための啓発・周知に努めていく。あわせて、作業している場面の写真などがあれば、証拠として市から指導できることもあるかもしれないので、機会があればお願いしたい。
町会 (西部第4区)	除雪の基本は雪捨て場をどれだけ確保するかである。学校の校庭は市の業者が使う場所であって、市民が持っていく場ではない。市民が捨てる場所も確保すべきであり、空き家を除却した土地について税を軽減するなどの方法も含めて考えていただきたい。 予報が出ているのだから、降り切ってから作業するのではなく、余裕を持って着手すればよい。作業が遅れると、本来1日で終わられる作業に3日、3日で終わられる作業に1週間を要することになる。 スタックはマンホールで起きる。マンホールは熱が逃げてそこだけ融け、周囲の圧雪との間に穴ができてタイヤが落ちる。マンホールの蓋から熱が逃げないような開発が必要である。壊れたものを直すだけでなく、なぜそこだけ壊れるのかを踏まえた対策を、先を見据えて行っていただきたい。

	人口減少によりパトロール要員も減る。防犯カメラの設置についても、防犯だけでなく、災害や熊の出没など複数の目的に活用すれば、人が少なくなっても現地に行かずに確認できるのではないか。
市	マンホールについては、周囲の圧雪が厚いとマンホール部分が融けて大きな穴となり、車がはまることがある。現在、マンホールの中に入れる断熱の蓋を実験的に導入しようとしており、今年度は何か所かで実験を行い、その状況を見て来年度は増やしていきたいと考えている。
町会 (西部第 2 区)	40年前に市の道路課で除雪を担当していた。昭和61年は豪雪で積雪量が2メートル近くに達したが、路線が止まる、生活道路に入らないということではなかった。予算も増え技術も上がっているはずなのに、なぜこうしたことが頻発するのか。 機械の能力自体は変わっておらず、運搬排雪の実質的な能力値は上がっていない。変わったのは作業員・業者数・機材数が減ったこと、労働時間の規制により長時間働けないことであり、実質的な作業能力が落ちていることが本質ではないか。その点が市からあまり示されない。 全体の能力を平準化しようという努力は見られるが、平準化に対応する仕組みであるために、1月20日のような大雪に対応できない体制になってしまったのではないか。豪雪に対応する突発的な体制を作るべきであり、例えば雪の少ない地域から車両や機械を調達し、応援を得る仕組みを業者に作らせるべきである。
市	その点も含めて現在見直しを行っているところであり、その一つとしてお示ししたのが、除雪の回数を増やせるような体制にするということである。 契約方法については、まだ決定していない状況であり、どのような形の契約がよいかを含めて検討している。決まった際には改めてお知らせする。